

令和6年度学校評価報告書

1 本年度の重点目標

1. 豊かでたくましい人間性の育成
2. 基礎・基本の定着と確かな学力の向上
3. ICTの活用
4. 安全・安心な学校
5. センター的機能の充実

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

自己評価: A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

学校関係者評価: A 適切である B おおよそ適切である C あまり適切でない D 適切でない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学習指導	① 個別の指導計画に基づいた指導を展開し、基礎学力の定着と向上を図る。各教科間で、生徒の変容や合理的配慮事項の変更等について情報交換を密に行いながら、個に応じた授業の工夫を行う。	A	児童・生徒の理解度や活動の様子について、教員間で常に情報を共有しながら、指導を進めることができた。また児童・生徒の発言を取り入れながら授業を進めたり、児童・生徒同士が話し合う時間を作ったりしたことで、より主体的に学習内容の理解を深めることができた。個別の指導が多くなる本校であるが、今後も少人数であっても集団での学びを取り入れた指導を工夫していきたい。	A	A
	② ICTの活用によって、学習内容に興味をもったり対話的な学びに近付けたりする。その実践を計画的に行うことで、児童生徒が確かな学力を身に付けることができるようにする。	A	情報を得たり、記録したり、やりとりしたりする活動を継続的に行った結果、活用方法や良さを理解し、操作に慣れたことで、学習に活用することができた。対話的な学びの機会を増やすため、オンラインを活用し他校の児童生徒と学習を行った。今後も継続していきたい。また、点字使用者用のICT機器（点字ディスプレイやブレイルセンス等）を小学部段階から少しずつ取り入れることで、さらなる学習の充実につながることを考えられるので、活用できるようにしていきたい。	A	B
学校関係者評価委員会における意見		<ul style="list-style-type: none"> ・ICTにおいて自分たちが不足していると感じている部分は、他の教育機関と連携し補うように努めていると感じる。 ・情報センターを活用することで、機器の貸し出しや機器の使用方法についての情報が得やすくなる。 ICTの活用によって学習が充実していることは家庭でも感じている。ただ一方でタブレット端末の使い方の約束が守れないこともあるので、その辺りの指導も併せてお願いしたい。 			
生徒指導	① いじめの未然防止や早期発見に努め、思いやりや助け合いの心で行動する児童生徒を育てる。	A	学校生活アンケートやいじめ防止集会など未然防止に努めることはもちろんのこと、各クラス担任が親身なって関わり、生徒指導部と情報を共有することで、人間関係でのすれ違いはあっても、重大事態に発展せず解決することができた。今後も継続して行っていきたい。	A	A
	② 多くの目を活用して、1人ひとりの良いところを共有し、日ごろの教育活動に生かすことで、自己肯定感・自己有用感を育てる。	B	少人数だからこそ、学部内では担任、副担任に関係なく関わり、様々な視点から幼児・児童・生徒をみることでできている。そこから幼児・児童・生徒の良さを本人や関わる教員が共有しており、本人の自己肯定感や自己有用感の向上につながっている。今後は、学部を超えた関わりが持てるような機会を増やしていきたい。	A	A
	③ 生徒会での各活動（組織作り、役割分担、計画、運営など）を通して、段階的に主体性の伸長を図る。	B	生徒数の減少で個人における負担が増加し、これまで以上に生徒にとっては大変な活動ではあったが、一つ一つの課題を何とか解決しようと努力できていた。ただ、どうしても役割が固定されてしまう点や学部間で温度差があるため、教育活動全体とも関連させながら、さらなる主体性の伸長を図りたい。	A	B
学校関係者評価委員会における意見		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が少ないことを利点として生かしていると感じる。 ・継続して生徒指導に関する職員間での情報共有をしていくとよい。 ・生徒会での個人の負担増加については、行事や役割の全体的な見直しが必要なのではないか。 			

進路指導	① 児童生徒一人一人の進路希望を的確に把握し、ニーズに応じた情報収集と指導に努める。	A	進路希望に応じて、必要な指導の実施や進路先との調整等を行い、関係機関と連携しながらきめ細やかな支援を行うことができた。今後も更に面談や懇談会等の機会を通して、児童生徒や保護者のニーズを的確に把握し、一人一人に応じた継続指導を行っていきたい。	A	A
	② 児童生徒の自己理解を深めるため、キャリアパスポート作成計画を明示し、校内での運用を進める。	B	キャリアパスポートを作成しているが、全てのクラスで活用するまでには至らなかった。次年度は説明するだけでなく、キャリアパスポートを活用する取組を紹介したり担任一人一人に声掛けを行ったりして運用を進めていきたい。	A	B
学校関係者評価委員会における意見		<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアパスポートの浸透とその効果に期待したい。 ・キャリアパスポートの利活用について、一度共通認識を持つ機会を持っていたきたい。 ・地方という難しい課題のある中で、学校側としでできる限りのことをされていると思うが、工夫の余地はまだあると感じる。 			
自立活動	① 自立活動を通して、自己理解や自己肯定感を高め、自己受容や障害受容、そして他者の意図や感情を理解したコミュニケーションができる。また、適切な支援を行う。	B	自立活動の時間に、担任を中心に、指導経験のある教員やカウンセラーの方を含め、心理面でのワークショップや講義による支援を行った。今年度は、生徒の欠席も少なく、落ち着いて生活している生徒が多い。教員にとってにも良い研鑽の機会になっている。次年度へ向けて改善点を話し合い、継続して取り組んでいく。	A	B
学校関係者評価委員会における意見		<ul style="list-style-type: none"> ・知識のある教員やカウンセラーの支援も必要ではあるが、例えば、実体験として苦しさを乗り越えた卒業生を招いてワークショップや講義を行うことも有益なのではないか。 ・とても充実していたので、自己評価はAでも良いと思われる。改善案により具体性があれば良かったと思う。 ・取組の蓄積をしていくとよい。 			